



第21回 関西ライフサイエンス リーディングサイエンティストセミナー



本セミナーは、ライフサイエンス分野で最先端の研究を展開されている関西の先生方にご講演をいただき、製薬、医療機器、診断薬、健康食品、医療関係者などのライフサイエンス関係者および一般の方々に、健康・医療産業に対するインスピレーションと産業化へのイマジネーションを感じていただくことを目的としています。このことは、産官学にわたる組織横断的なコミュニティの醸成と、産官学の対話促進につながるものと期待しています。

本セミナーは、3か月に一度の頻度で開催し、毎回2名の講師の先生から、最先端の研究についてホットな話題をお聞きいただけます。また、交流会では講師の先生と直接お話しいただけます。

記

日時：2019年9月4日（水）15:00～18:00

会場：ナレッジキャピタル カンファレンスルーム (B02)
(グランフロント大阪 タワーB 10階)

地図：<https://www.kc-space.jp/conference/items/towerB.pdf>

参加費：無料（交流会：1,000円）

主催：NPO 法人近畿バイオインダストリー振興会議、公益財団法人都市活力研究所

共催：NPO 法人バイオグリッドセンター関西

後援：関西医薬品協会

講演 I 15:00-16:00

「大腸菌研究からのネットワーク生物学への展開」

奈良先端科学技術大学院大学 データ駆動型サイエンス創造センター
システム微生物学 教授 森 浩禎

1885年に発見された大腸菌は、1946年の接合の発見以降急速に研究に利用され、大腸菌により遺伝子の概念が構築されたと言っても過言ではない。地球上で最も研究が進んだ生物であるが、ゲノム研究の進展と共に部品（遺伝子）の情報だけでは、その部品から作られた生命体の理解には繋がらないことが明らかになってきた。種々の細胞内相互作用ネットワークにより成り立つ生命体理解への挑戦の現状を解説する。

講演Ⅱ 16:00-17:00

「腸内細菌叢とがん ～腸内細菌関連因子による肝がんの進展機構～」

大阪市立大学大学院 医学研究科 教授 大谷 直子

宿主であるヒトと腸内細菌叢はお互い共生関係にある。しかし、ひとたびそのバランスが崩れると、様々な疾患発症に寄与することもある。私たちは肥満に伴い増加するグラム陽性腸内細菌が、デオキシコール酸を産生し、腸肝循環等を介して、デオキシコール酸を肝臓に供給するだけでなく、その細菌細胞壁成分のリポタイコ酸をも肝臓に供給し、自然免疫応答を介して、肝星細胞を含む肝臓の組織微小環境を変え、肝がんの進展に寄与する可能性を示した。逆に近年、抗腫瘍免疫を活性化する腸内細菌種も報告されている。

17:00-18:00 交流会・名刺交換会

【次回のご案内】

〈第22回〉

日時： 2019年12月9日（月） 14:00～17:00

※第22回から開始が1時間早まります。ご了承ください。

場所： ナレッジキャピタル カンファレンスルーム（C01）
（グランフロント大阪 タワーC 8階）

地図： <https://www.kc-space.jp/conference/items/towerC.pdf>

〈プログラム〉

14:00～15:00

「細胞動態からみた皮膚免疫反応」

京都大学医学部附属病院 皮膚科 講師 本田哲也

15:00～16:00

「医療データ二次活用環境構築のためのロードマップ」

大阪大学大学院 医学系研究科 情報統合医学講座 医療情報学 教授 松村泰志

16:00～17:00

交流会・名刺交換会

問合先：NPO 法人近畿バイオインダストリー振興会議 事務局 電話：06-4963-2107（梅村、松村、大嶋）

公益財団法人都市活力研究所

電話：06-6359-1322（味村）